

大阪府住宅まちづくり審議会 第1回作業部会 議事要旨

日 時：平成27年4月24日（金）17時30分～19時30分

場 所：大阪府公館 大サロン

議 事：大阪府における今後の住宅まちづくり政策のあり方について

（事務局より資料1～3を説明。以下、質疑応答・意見交換）

【意見交換概要】

委員名	意見概要
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの工業中心で公害問題等から住環境を良くしようと人口が分散に向かっていたが、今回は方向が随分変わって、イノベーションなどの知識社会が重要になってきているので、集中することのメリットの方が大きくなってきている。それが大阪の豊かさを高めていく上では大事だということかなり大きな認識の変化が前面に出ている。 ・これまでは1番に安心、2番に安全、3番に環境など住んでいる人の住みやすさを前面に打ち出していたのが、もっと人が集まって、成長、活力というところがかなり強く出されている印象。 ・私自身は、産業構造が大きく変わって、イノベーションや知識、アイデアが成長に大事な社会になってきているので、私の認識と対応した形だと評価できる。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・住むという囲われたところだけでなく、屋外の空間も含めて、居住環境、住宅地政策を考えていくことが読み取れる点は評価できる。 ・住まいからいきなり「都市全体」に飛びすぎているように思う。地域によって居住環境が異なるので、地域特性にあった住まい方を提供するという考え方が導入できれば良いのではないか。 ・住むという間取りの広さや施設の利便だけでなく、屋外に緑や菜園があるなど、豊かさや快適さを今までの住宅にどのように追加していくか。 ・都市全体の議論も大事だが、それだけでは均一的な住宅を配置する政策に直結するようにも思われるので、メゾ（マクロとミクロの間）的なレベルで考えていく必要があるのではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人口については定住人口を増やすのか。全体として人口が減少する中で大阪だけが一人勝ちするということをめざすのか、位置づけを明確にする必要がある。定住人口を増やすということであれば、どこから人口を持ってくるかという問題もある。 ・大阪の中でメリハリをつけていって、人が集まるところとコンパクトな都市に地域を形成し、居住魅力をつくって定着率を上げるということであればいいと思う。 ・定住人口ではなく、交流人口、多地域居住などにより、1人が1.2～1.3人分の住まい方、暮らし方をするというとらえ方で、活力・魅力を高めることを考えるべき。 ・人口減少は、現状の年齢構成からすると必ず生じるので、定住人口を増やすという計画にすれば上滑りしてしまう危険性がある。 ・コミュニティの再構築が重要。昔ながらの地縁組織とは異なる新しいライフスタイル、多様な人たちがつながるコミュニティをどう再構築していくか、そのための場所をどう提供していくかということをおの中できえられればいい。具体的には空き家・空き

	<p>地をパブリックな場所として（コミュニティカフェなど）使っていくなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度検討が開始された国の住生活基本計画（全国計画）の見直し内容を横目で見ながら、大阪ではどういう形で盛り込めるかも考えておく必要がある。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある大阪を作っていくという熱意、思いを感じる。 産業構造が変化する中で、大阪に魅力的な企業を誘致しようとした場合、企業は都市を選ぶので、それ相応の魅力ある住宅供給が必要。 これまでは困っている人に対する政策が中心だったが、都市全体の成長・発展を考えた場合、多様な、魅力ある住宅、地域づくりが重要。 若い人に大阪に住んでもらうには、若者のスタートアップを住宅政策としてどう支援できるかが重要。職住近接が望ましい人に対する住宅支援が十分でなかったところもある。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 仕事がないと人が来ない。大企業の東京への流出が進んでいるが、小さな仕事をやっているデザイナーやクリエイターもそう。皆大阪にいたいのに、仕事がないから東京に行ってしまう。 職と住との関係を混ぜ込むような政策を考えていかないといけない。 若い人だけでなく、中年層が賃貸住宅に住む事を希望しても、大阪には住みたいと思う賃貸住宅がほとんどない。値段が高く、面積の広い賃貸が大阪にはない。外資系企業が神戸に家を構えるのは、大阪にいい賃貸がないから。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 木造密集市街地の更新を進めるには、魅力をいかにその土地に与えて更新力を高め、安全を確保することをあわせて考えないといけない。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 作業部会で多少、人口論を掘り下げないといけないという話になる。 人口という概念そのものももう少し深く考えないといけない。人の動きをきちっと抑えたデータがない。限界はあるが、ある程度基礎的なデータをそろえて分析、検討が必要。 住宅政策の枠組みをどのように広げていくか。住生活そのものの持てる価値について議論を深めなければいけない。 住生活の空間ということを考えるのであれば、都市空間、大阪大都市圏という広い概念で考えないといけない。 コミュニティ、社会関係についてももう少し議論を深めないといけない。 地域性、地域の個別性について、固有名詞で語れるような地域の課題を考えないといけない。 これまでのマスタープラン（以下「MP」という。）から外に広がっていくところを作業部会で議論していく。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 「納税」という言葉に違和感。MPに納税してもらうために住んでもらうと書くのはどうかと。むしろ、文章を分けて、集まって住んでもらうことで豊かな公共サービスが提供できるとか、地域コミュニティを活性化できるとかベネフィットとして書いたほうがよい。 政策の方向転換の背景を書くべき。産業構造が変わって、イノベーションが大事で、どういった都市だと成長できるかという概念が変わったということがないと、なぜ人

	<p>を集めるのかとなる。核となるような人たちが集まると、投資を直接していない人の所得も上がるというのは経済学でも言われている。魅力的で創造性豊かな人をどれだけ集められるかが地域活性化に関係するということを論じるべき。</p>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像に副題が必要か。主題に溶け込ませればよいのではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・民主導だけでなく、公民連携も必要ではないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市場メカニズムを上手く働かせるために、公共が市場環境の整備を行う。表現として、民主導と書くと、公共が見えなくなるという趣旨の指摘。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率の話はどこかに入れられないか。これまでは集まって住むということが環境を悪くする要因という認識だった（人口密度に比例してヒートアイランド現象が深刻化するなど）が、密度高く住むことによってエネルギー効率を上げることができるので、そういう施策を具体的取組みに入れられればよいと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪に豊かに住むイメージの情報発信戦略が必要。学生が大阪に下宿するイメージが湧きにくい。大阪にも魅力的なところもあるのに、マスコミが偏った情報を発信しているのが要因。ドラマや映画など、民間が上手く情報発信できるような仕組み。観光ではない、住むという等身大の大阪の魅力を発信していく必要あり。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・理想の将来像を提示することには異論はないが、どうやってそれを実現するかについての基本の方針が読み取れない。将来像を達成するための手段、具体的な方針を書くべき。人口を増やしたいという方針と関連するが、どこにどんな住宅を配置するのかという方針について、具体的な目標とそれに対する現実の課題を示していただければと思う。 ・「魅力ある住まいと都市」にするためには、歩いて、または自転車でいける範囲に生活施設を充足させるという方針を出すことが必要ではないか。具体的な目標とそれに対する現実の課題を示していただければと思う。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性、地域ごとのポテンシャルをどう活かすかということまで踏み込んで書く必要がある。 ・よくある計画、ビジョン系では「参画」という項が設けられている。住民参画ということを経営として位置づける必要があるのでは。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の話は、現 MP では市街地タイプ別の施策の方向性で一定示しているが、今回の改定でどうするか、枠組みの中に入っていないので無いように見えるが、市街地タイプ別という考え方がいいのかどうかというのは前も議論があって、もう少し固有名詞を入れたほうがいいんじゃないかという話があったが、結局市街地タイプ別ということになった。 ・「参画」の話も最後の方に書かれているが、主題にはなっていない。

委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心を重視した政策から、活力・魅力を重視するのなら、ポンチ絵は並行にならべるのではなく、ベースにするイメージでは。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 住宅からまちづくりへということだが、住まの政策ですべて受けるのではなく、他のまちづくり政策との連携ということを書かないといけない。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 府で策定している関連計画との相対的な関係を整理しないといけない。 ポンチ絵で表現したいことは分かるが、人の活動とそれを支える仕組みが混在しているので、精査が必要。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 大きな方向転換として、住まいだけでなく都市全体で見ていくということなので、これまでの縦割りから他の都市計画部門とも連携して進めていくというメッセージ、枠組みを入れるべきでないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 重点的取組みの期間のイメージは、10年間か、もしくはもう少し長期か。 大阪府の人口の社会増減では、10代は流入しているが、30代は流出している。こういう若い世代、子育て世代が出て行かず、もっと入ってくるようにするために、住宅の量・質のミスマッチがあるのか、ライフスタイルに合った住宅がないのかなどを考える必要がある。 「低所得、高齢、障がいをお持ちの方」、「子ども・・・創造的な人材」という主体のイメージが書いているが、それぞれの主体が、近未来でどんなくらしができるのか、大阪に住むとこんないいことがあるということイメージできるようなものを発信するという打ち出しが必要でないか。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 他部局、他主体が目玉でやっている施策で住宅施策が絡んでいけないところがないかという視点での取組みの洗い出しも必要ではないか。例えば、国際化で言うと、公的ストック対策として、留学生向け宿舎、2戸1改築など。 事業を目玉にしたインパクトある取組みも必要になってくるのでは。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心と活力・魅力を同列に書くのはどうかという意見があったが、安全・安心は非常に大事なので強調したほうがよい。
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 2項対立的に考えるより、相乗効果として捉えるべき。 都市の魅力のダイアグラムも少し検討が必要。 これまでの取組みも踏まえ、戦略的に打ち出すところはどこかを検討する必要がある。 本日の議論は、最終的にどうまとめるかというよりは、どういうところを議論しないといけないかという論点を整理するという事で引き続き事務局で作業を進めてもらえれば。